



東北大学

報道機関 各位

平成 22 年 8 月 5 日
東北大学大学院文学研究科

読解能力の国際比較研究－国民読書年と読書－

今年、2010 年は「国民読書年」でもあり、生涯を通じた読書との関わりに注目が集まっています。読書と一口に言っても、分野・内容も多様であり、また、新聞、書籍からインターネット、さらには電子書籍など、“活字”のあり方自体も近年、多種多様になってきています。

甲田直美准教授（文学研究科）は、読みにくさを克服する手段（ストラテジー）について研究を行っており、先頃ニュージーランドで開かれた国際読書学会世界大会

（International Reading Association 第 23 回 World Congress on Reading）にて、大学生における読解の国際比較に関する研究発表を行いました。この研究によると、日本では問題解決への意欲が理解を助けていましたが、中国語話者では文章全体の理解手順が問題解決の鍵となっているなど、何が「理解しにくさ」を克服できるかについて違いが見られました。このような研究は、幼少期から大人まで、一生涯を通じて、自らの世界を広げる大切な手段としての読書活動を広げていく手がかりとなるでしょう。

国際読書学会とは、読解教育の質と研究を高めることにより、世界の読み書き能力（リテラシー）とコミュニケーションを豊かなものにしていこうという使命のもと、世界 100 カ国、およそ 70,000 人の読解研究者からなる組織です。本組織は、世界各国への識字率上昇へ向けての支援や、教育者の育成等、教育現場と研究を橋渡ししようと活動を行っています。

[お問い合わせ先]

甲田 直美（こうだ なおみ）

東北大学大学院文学研究科・准教授

〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 27-1 東北大学大学院文学研究科・国語学研究室

電話 022-795-5988

FAX 022-795-5986

メール nkoda*sal.tohoku.ac.jp（*を@に置き換えてください）